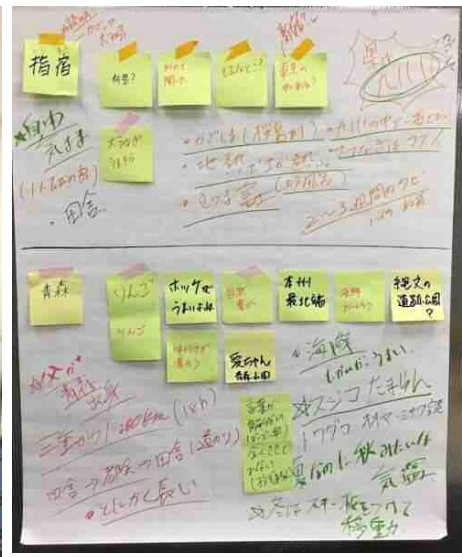
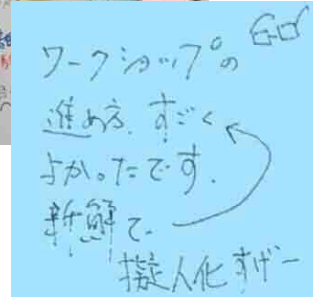
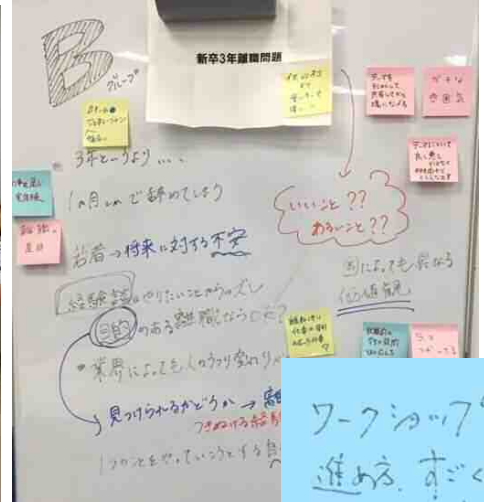
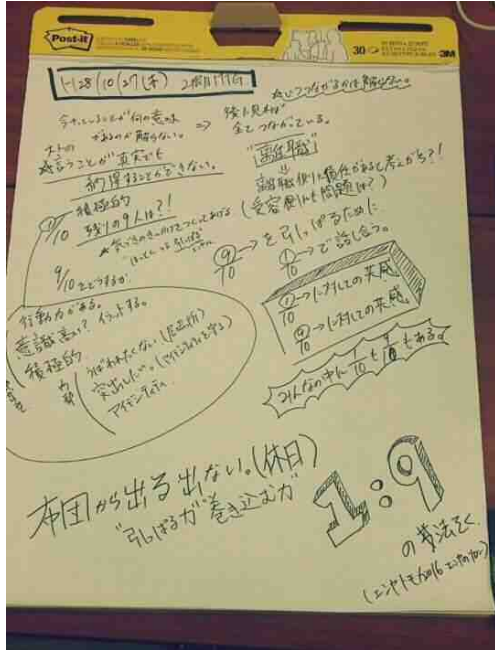


皇學館みらい対話団



皇學館みらい対話団では主に伊勢志摩地域の課題を題材に、多様な人達が集い地域の未来について対話する場をつくる活動を行っています。月に1回程度の学生主導によるフューチャーセッションを通して場作りや対話の進め方などを学びながら、多様な人々と地域の課題解決について考え合います。

本年度は5月20日に最初のフューチャーセンター(第**4**回)を行いました。テーマは「地元食材をもっと食べてもらうにはどうすればよいか」でした。ファシリテーターは教育2年の田畑奈那子さんでした。彼女の問題意識としてスーパーの地元産食材コーナーの商品を観た際に良い物ばかりなのにあまり売れている気配がないなということだったそうです。

第**6**回(7月22日)のフューチャーセンターのテーマは「Barみらい-MIRAI」～それぞれの旅～でした。ファシリテーターは文学部3年倉田亜耶さんでした。この回は地域課題について対話するのではなく、立ち寄ったBarで話すかのような空間を演出しその中で様々な旅の話をするものでした。

第**7**回(10月21日)のフューチャーセンターのテーマは～「対話」研究所(Dialogue Labo)～ファシリテーターは国史学科の杉森陸さんでした。テーマ設定理由として、みらい対話団の名前にもあるように対話とは何なのか。対話は複雑化し予測不可能な現代の課題を解決する手段と成り得るのかを知るといったものでした。

第**8**回(11月25日)のフューチャーセンターのテーマは「ぴた対話:わかればわかる～9:1の法則」でした。ファシリテーターは文学部国文学科2年の塩谷友香さんでした。彼女の問題意識として、大学の授業以外で様々な活動に参加している学生が少ない気がするということでした。テーマにある9:1は学生の割合を示していて、9が積極的に活動に参加していない学生であり、1が様々な活動に参加している学生です。この回は三重県の運営する「学生×地域活動マッチングサイトぴたゼミ」さんをテーマ提供者としてお迎えしました。
(指導教員:池山 敦)